

Title	タイ語における色彩表現の意味的特徴
Author(s)	宮本, マラシー
Citation	大阪大学世界言語研究センター論集. 2 p.35-p.64
Issue Date	2010-01-07
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/5564
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

タイ語における色彩表現の意味的特徴

宮 本 マ ラ シ ー

MIYAMOTO Marasri

Abstract:

Semantical Characteristics of Thai Basic Color Terms

The purpose of this paper is to investigate, from a sociolinguistic perspective, the characteristics of color terms in Thai by semantically analyzing the word “*sǐi*(color)” and 11 basic color terms expressed in everyday life. As a result, it has been shown that when these terms are expressed in the form of word repetition, they connote the ambiguity of colors, or emphasize the shade of colors if the previous word is pronounced with a high tone. In addition, when they idiomatically or metaphorically used, they symbolize a particular state of people’s physicality, generation, emotion, and ideology as well as ethical view. Most of these expressions have been obviously found in the terms of *sǐi*(color), *dɛɛŋ*(red) and *khǐao*(green) more than in those of *khǎao*(white), *dam* (black), and *lǔaŋ*(yellow), and a few have been found in those of *múaŋ* (violet), *chomphuu* (pink), *nám-taan*(brown), *nám-ŋən*(blue), *sôm*(orange) and *thao*(grey). This also suggests the different degree of people’s interest in each of the colors. As consequences, the cognitional development toward colors and the color awareness of Thai people are inferred by this study.

Keywords : color terms, color cognition, Thai verbal expression, sociolinguistics

キーワード : 色彩語, 色彩の認識, タイ語表現法, 社会言語学

1. はじめに

すべての文化や民族が色に対して同様の感覚を持っているとは限らない。色彩に対してほとんど関心を示していない社会や民族もある。西洋の社会にもあまり色彩に対して関心が示されなかった時代が過去にあった。たとえば、ルネサンス時代を見てみると、当時の美術品は白・黒で出来たものが主流であったし、さらに、当時は、黒が上品、洗練、高貴な色と認識され、逆に色は侮蔑的なものとして見なされていた。しかし、19 世紀のヴァン・ゴッホがいろんな色を使って絵を描いて以来、原色は原始人または子供の表象としてだけでなく、知識人の間でも普通に認識されるようになった [Gage1995]。このように色に対する認識は民族や、属する社会、または時代によって、相違もあれば、変遷もする。タイの社会では、曜日の色¹が決まっているので、人々は生まれた曜日の色を服装に取り入れたり、ラッキーカラーとしたりするように、昔から日常生活における色に対する気遣い等が感じられる。現在も色の使い方におけるこだわりは様々な機会や場所に表われる。公務員、会社員、そして学生の制服の色、スポーツ大会におけるグループの色、大学や学校の色などはその例の一部に過ぎない。最近では象徴的な色の使い方があった。2006 年から 2008 年にかけて、国全体が黄色で染まったかのように、タイのどこへ行っても黄色の服を着用する人達がいた。2007 年に満 80 歳の誕生日を迎えられた、現国王ラーマ 9 世がお生まれになった月曜日の色が黄色だったため、そのお祝いのシンボルとして多くの人が黄色の服を着用したためである。その後、同様に、王妃の誕生日のお祝いの際には王妃のお生まれになった金曜日の空色、国王の姉の誕生日のお祝いにはお生まれになった火曜日のピンクなども一般的に着用されていた。その様に同色の服を皆が着る（買う）ことで、タイの経済がしばらくの間活気を呈したとさえ言われた。このような現象は、タイ人の色に対する認識がよく反映したものと言えるだろう。

色彩に対する人々の認識は、その属する文化によって共通性もあれば、相違性もあり、それは色彩を表す言葉に顕著に表れる。Berlin B. and Kay P. [1968] は、英語、日本語そしてタイ語も含め世界のさまざまな地域の言語、計 20 カ国語の色彩語を調査した結果、次のように主張している。言語によって、色を表す色彩語の数が違っているにもかかわらず、白、黒、赤、緑、黄、青、茶、紫、ピンク、オレンジそしてグレーの中の 2 から 11 の色彩語が言及されていることが一般的である。これらは基本色彩語 (Basic Color Terms) と言われている。世界のすべての言語は白と黒を表す色彩語を持ち、3 つの色彩語を持つ言語では、白と黒に加えて赤を表す色彩語があり、4 つの色彩語がある言語では、白、黒、赤に緑または黄のどちらかが加わり、5 つの色彩語がある言語では白、黒、赤、緑そして黄を表す色彩語、6 つの色彩語を持っている言語では、それらの 5 色に青 (blue) が加わり、7

1 生まれた曜日の色はインドから伝わってきたそれぞれの曜日を守っている神格の体の色から来たとされている。月曜日を守る神の体の色が黄色なので、月曜日の色は黄色となり、同じように、火曜日はピンク、水曜日は緑、木曜日は橙色、金曜日は空色、土曜日は紫、そして、守っている神が太陽である日曜日は赤である [宮本 2009]。

つの色彩語を持っている言語では、7 番目の色は茶、そして、8 つ以上の色彩語を持っている言語には、紫、ピンク、オレンジ、グレー、またはそれらの色が組み合わさった色、というように、それぞれの民族や社会の認識によって段階的に展開されてきた [Berlin B. and Kay P.1968(1999):2-3]。

また、John Lyons [1995] は次のように述べている。すべての言語は同一の色彩語を持っているとは限らないので、ある特定の言語の色彩語は必ずしももう一つの言語の色彩語とその意味する色が一致するとは限らない。彼は次のような現象を例として取り上げている。ラテン語には「茶色」と「灰色」という意味の語彙がなく、ウェールズの文語には英語の green, blue, grey また brown と同じ意味の言葉がないが、green の一部を表す言葉、green の残りの部分、blue の全体、grey の一部を表す言葉、そして grey の残りの部分と brown の一部または全体を表す言葉はある。日本語の「青」は文脈によって、green, blue または dark に訳すことができる。ロシア語には blue という意味の単独の言葉が存在しない。ロシア語の goluboi と sinii は light blue または dark blue と同色の濃淡のようによく訳されるが、ロシア人は別々の色として認識している。ハンガリー語は赤色を表すのに 2 つの言葉がある。ナヴァホ語には brown と grey、また blue と green を同じ言葉で表わしているが、black を表すのに 2 つの語彙を持っている。ニューギニアやオーストラリアの先住民の基本色彩語 (Basic Color Terms) は dark と light、または black と white という 2 語しかない。またフィリピンの Hanunoo 語には black、white、red そして green に翻訳することができる 4 つの言葉しかない、など [Lyons 1995:202]。さらに、Lyons はある特定の言語の場合は、その言語を母語として用いている人にとっても何が基本の色彩語であるのかを決めることも必ずしも容易なことではないということも指摘している。方言、テキスタイルのデザイナーやペンキの製造者などの業界で用いられる専門の言葉以外に、彼は色彩語をレベル 1 とレベル 2 の 2 つのレベルに分類している。たとえば、英語の場合は、ほとんどの母語話者である大人が、理解し、一般的に使用している、つまり一般的な色として認識されていると想定することができる、black, white, red, green, yellow, blue, brown, purple, pink, orange、そして grey はレベル 1 とし、より限定的な色である、scarlet, mauve, turquoise そして beige はレベル 2 とする。レベル 1 とレベル 2 の相違の中には次のようなことがあげられる。レベル 1 の色彩語は「これは何色ですか」という質問に対して文脈に頼らずに普通の答えとして用いられる言葉であるが、レベル 2 の色彩語は、レベル 1 の色彩語を用いて定義をする場合に多く見られる。たとえば、mauve は pale purple の一種であり、scarlet は a brilliant red(tinged with orange) などのように定義される。

Lyons はさらに、英語では、deep, pale, light, dark, bright, vivid そして brilliant のような基本色彩語を修飾する言葉が多く存在する。それらの言葉は基本の色彩語を修飾することによって、レベル 2 の色彩の定義を可能にするとも指摘し、また、一般的に用いられる英語の形容詞には「色がある (having colour)」, または「色がない (colourless)」といった意味合いのものがいないことも指摘している²。

なお、Lyons の英語のレベル 1 の 11 語は Berlin B. and Kay P.[1968] によって指定され

た「基本色彩語 (Basic Color Terms)」である 11 語と同じであるので、ここでは、Lyons のレベル 1 の色彩語も「基本色彩語 (Basic Color Terms)」と呼びたい。

Berlin B. and Kay P. [1968] はタイ語の基本色彩語には、*khǎ·w* white, *dam* black, *dɛ·ŋ* red, *khǎaw* green, *lǎŋ* yellow, *fǎ·* blue, *námta·n* brown, *múan*² purple, *chomphu·* pink, *sàad* orange³, の 10 色があることを指摘した [1968(1999):101] が、タイ人の日常生活においては、英語の grey に当たる灰色を表す「thao」⁴という色彩語も一般的に用いられている。Berlin B. and Kay P. [1968] が指摘した 10 語および thao (灰) は一般のタイ人にとってすぐ思い浮かぶもので、英語や日本語に訳す際にもほとんど支障がないと思われる。しかし、*sǐi plǎak mankhút* (マンゴスチンの皮の色) や *sǐi puun hêŋ*⁵ (乾いた石灰の色) のような色は非常に限定的な色であり、元の色を見たことのない人にとっては、それらの色を理解するには何らかの説明が求められ、やはり、*sǐi plǎak mankhút* は紫がかった茶色、*sǐi puun hêŋ* は薄いピンクがかったオレンジ色、のような定義が必要となる場合も多くあると想像できる。よって、ここでは、*sǐi plǎak mankhút* や *sǐi puun hêŋ* のような限定的な色彩語はレベル 2 となる。一方、*dam* (黒)、*khǎaw* (白)、*dɛŋ* (赤)、*khǎaw* (緑)、*lǎŋ* (黄)、*nám-nən* (青)、*sôm* (オレンジ)、*chomphu* (ピンク)、*múan* (紫)、*nám-taan* (茶)、そして thao (灰) の 11 の色彩語はレベル 1 とし、タイの「基本色彩語 (Basic Color Terms)」とする。

上記のとおり、ここまで色について文化的、そして言語的にアプローチしている Berlin B. and Kay P., Gage と Lyons の論説の一部を、そして、タイの言語には英語において言及されている基本色彩語と同じような語彙があることを紹介した。ここからは、タイの色彩語の表現法を通して、それぞれの表現法には、タイ人の色彩全般、また、ある特定の色彩における認識およびそれぞれの色に対する意識はどのように解釈することができるのかという社会言語学的なアプローチを試みたい。そこで、日常生活において、さまざまな場面で表現されている上記の基本色彩語の意味的分析を通して、次の点を明らかにしたい。

1. 基本色彩語 (以後色彩語) は単独で色彩そのものを示す場合に使用される以外に、どのような表現の仕方があるのか。たとえば、他の言葉と共に用いられることにより、

2 英語には coloured と colourful という言葉が一般的に使用されるが、この 2 つの言葉については、Lyons は、「色がある (having colour)」と違った意味で用いられるし、また哲学的な論議の場合に「色がある (having colour)」という意味で用いられることもあるが、特別な使い方はないと主張する [Lyons1995:203]。

3 タイ語の表記は本稿での表記の仕方と違う部分があるが、原文のままに引用している。

4 本稿では、タイ語の発音を表記するために、SIL International Organization により開発された SILManuscript IPA93 の発音フォントを使用している。ローマ字表記の上部に付いている符号は声調を表す。「ˊ」は低平調、「ˋ」は下降調、「ˆ」は高平調、「ˊˊ」は上昇調、そして、ローマ字表記の上部に何の符号もない場合は中平調である。

5 *puun hêŋ* (*puun*= 石灰、*hêŋ* = 乾燥した) : 昔、タイ人は *puun* (石灰) と *khamín* (キョウオウ) を混ぜて赤くし、*màak* (ビンロウジ) を噛むときに *phluu* (きんま) の葉に塗る [富田 1990]。その赤い石灰は水分がなくなると、薄いピンクがかったオレンジのような色になると思われる。現在では、ビンロウジときんまを噛む習慣はほとんど見られなくなっているため、若者の間には赤い石灰のことを知らない人も少なくないだろう。

どのような意味合いが生み出されるのか、また表わされている色彩の意味領域はどのように変化すると考えられるのか。

2. 色彩語の表現法と意味を通して、タイ人は色全体、また、それぞれの特定の色に対してどのような認識と意識を持つと解釈することができるのか。

分析の対象とする色彩語は辞典、日常生活における筆者の体験や、タイ人のインフォーマント⁶、そして web 上で見られる基本色彩語の 11 語と sǐi (色の総称) である。なお、「sôm-dæŋ (赤味がかったオレンジ)」、「mûaŋ-nám-nəŋ (青紫)」のような基本色彩語の組み合わせによって出来た熟語的な色彩語の表現は対象外とする。

2. 色彩を表すタイ語表現

(1) sǐi (色)

「色」という意味で sǐi と単独で用いられ、そして、たとえば、sǐi dam (黒色)、sǐi khǎao (白色) のように特定の色を表す言葉の前につけて用いられるのが一般的である。以下は sǐi を使った表現の例である。

1/W⁷ weelaa pai ɲaan sòp khuan sǐi sǐi dam [色・黒]⁸ rǔu mǎi kô sǐi khǎao [色・白] mǎi khuan sǐi sǐi sǐi [服・色・色] pai.

お葬式へ行く時には、黒色または白色の服を着ていくべきだ。どちらかと言えば色がある方の(色のある) 服を着ていくべきではない。

sǐi dam (黒色) と sǐi khǎao (白色) と表現されているように、黒と白は色を表す言葉として用いられる。一方、例 1 の sǐi は「sǐi (服) + sǐi sǐi」という反復語として服という言葉に修飾して用いられると、「どちらか言えば色がある方の服」といったように「(具体的に明確な) 色の服」より意味が曖昧になり、先行する sǐi dam (黒色)、sǐi khǎao (白色) と対照的に表現される。英語や日本語にもあるように、sǐi (色) が sǐi dam (黒色) や sǐi khǎao (白色) とは対照的に表現されることは他でも見られる。たとえば、fiim sǐi (カラーフィルム) は fiim khǎao dam (白黒フィルム) の対照として、thoorathát sǐi (カラーテレビ) は thoorathát khǎao dam (白黒テレビ) の対照として、そして rûup sǐi (カラー写真) は rûup khǎao dam (白黒写真) の対照として用いられる。

sǐi (色) の明暗や濃淡などの色合いを表すのに、「sǐi...」という形で、修飾語が後続される sǐi の表現には、sǐi ʔəŋ (色・弱い / 柔らかい = 薄い色)、sǐi kɛe (色・老いた / 熟した

6 タイ人のインフォーマントは 20 代 -60 代の男女合計 5 名である。

7 数詞の後ろにあるローマ字記号は例文の出所を示す。W は web 上、P は筆者の体験やタイ人のインフォーマント、そして D は『タイ日事典』[富田竹二郎 1990] から引用されたことを示している。

8 [] 内の日本語は下線部の各タイ語の意味である。

9 下線部の日本語訳は、() の前にあるものは直訳であり、() 内のものは意識である。

＝濃い色)、sǐi caaŋ (色・うすれた / あせた＝あせた色、薄い色)、sǐi khēm (色・濃い＝濃くて深みがある色)、sǐi mǎut (色・暗い＝暗い色)、sǐi sawàaŋ (色・明るい＝明るい色)、sǐi sòt (色・新鮮な＝鮮やかな色)、sǐi thum (色・くすんだ / 沈んだ / 陰った＝暗くてくすんだ色)、sǐi càt (色・極端な / 厳しい＝きつい色)、sǐi riap (色・平らな＝落ち着いた色、地味な色)、sǐi càut (色・味気ない / あっさりとした＝物足りない色)、sǐi mòn (色・憂鬱な / スカッとしなない＝グレーがかっているようなくすんだ色、渋い色) 等がある。そんな表現を用いた例を見てみよう。

2/W rɔɔŋ-tháao pháabai sǐi cèp cèp [色・痛い・痛い] sǐi sǐi, maa duu kan.
痛い色 (派手な色) の運動靴ですよ、ご覧ください。

3/W sǐi thum thum [色・くすんだ・くすんだ] yàaŋ sǐi nám-taan mǐi khuan cháai. thǎa ca hǎi dǐi tǔn pen sǐi sèep sèep sòt sòt [色・沁みる・沁みる・新鮮な・新鮮な].....
あなたは茶色のくすんだ色 (地味な色) は使うべきではない。目に沁みる新鮮な色 (派手な色) がいいと思います。

sǐi cèp は目に眩しい強力な色、派手な色として用いられる。同じように、sǐi sèep sèep sòt sòt [色・沁みる・沁みる・新鮮な・新鮮な] は言葉通り、見ると目が痛くなるような派手な色として用いられる。他には、たとえば、sǐi reeŋ reeŋ (色・強い・強い＝派手な色)、sǐi riap riap (色・平らな・平らな＝地味な色)、sǐi wǎan wǎan (色・甘い・甘い＝爽やかなパステルカラー) などある。これらの修飾語はそれら自体が明確な意味を持っているが、一方、下記のように単体でははっきりとした意味を持っていない言葉が sǐi (色) に後続する例も多く見られる。

4/W krom wít néʔ yàa kin ʔaahǎan sǐi chùutcháat [色・派手さを表す語] kǎon.
科学省はあまり chùutcháat (派手な) 色の食べ物は食べないようにとアドバイスする。

5/W (テレビの画面の色がきつ過ぎて) sǐi céet [色・派手さを表す語] sèep taa caŋ, hǎa rǎaŋ pai noon dǐi kwǎa.
céet (派手な) 色は目に沁みるので、もう寝た方がいい。

6/W yàak thaa lép sǐi ciit ciit [色・派手さを表す語・派手さを表す語].
ciit ciit (派手な) 色のマニキュアを塗りたい。

7/W mék búk pro sǐi cáap cáap [色・派手さを表す語・派手さを表す語].
cáap cáap (派手な) 色の Mac Book Pro です。

8/W mii khrai tham rót sii præn præn [色・派手さを表す語・派手さを表す語], léeo doon
bòok mǎan phǒm bāaŋ.

僕は車の色を præn (派手) な色にしたので、(タクシーだと思われて) 呼び止め
られたことがある。僕と同じ経験を持った人はいませんか。

例 4-8 の chùutchàat, céet, ciit ciit, cáap cáap, præn præn は sii (色) に後続すると、色が派
手であることが表わされるので、「派手な色」と日本語に訳せる。

sii (色) は、反復語の形で表現すると、例 1 ですすでに触れたように、色の表す意味が
曖昧になるが、「sii sii」のように先行語が高平調となるなら、「派手な色」となり、意味合
が強調されることになる。

9/W thaanii yéem khon mii sii [人・ある・色] bongkaan sǎnhǎan sǒnthí?

ターニー (警察大将の名前) はソンティ (新聞記者の名前) の暗殺を指揮したの
は色のある人であることを少し漏らした。

10/W càp phraan klùm khon mii sii [人・ある・色] lâa sàt pàa....bòok wâa ton pen thǎhǎan
phróom kàp pǎet sǎa hâi duu ʔaawút pʉun.

獣を狩猟していた色のある人を逮捕した。、、、服を肌けて銃を見せながら自分は
軍人だと言った。

11/W thammai khon mii sii [人・ある・色] chôp bèŋ sài khon mǎi mii sii.

なぜ色のある人は色のない人に対してよく威張るのだろうか。

khon mii sii (色のある人) は、軍人や警察を表す言葉として用いられる。ここでの色と
は軍人と警察の制服の色のことである。また、軍人の中では空軍と海軍よりも多くの場合
は陸軍のことである。具体的な色で言えば、警察の制服の色である sii kaakii と呼ばれて
いる茶色がかったカーキ色と、陸軍の制服の色である sii khǎao と呼ばれている緑っぽいカ
ーキ色である。khon mii sii (色のある人) という表現だけでは警察を示すのか、陸軍を示
すのかは明らかではないが、多くの場合は文脈から判断できる。例 9 で言及されている
事件は戦争の武器が使われたと連日報道されていたことから、「khon mii sii」は軍人である
と一般のタイ人は理解している。例 10 は「自分は軍人であると言った」という後続の文
章から判断出来る。そして、例 11 は、一般の市民にとって不満の対象は日常的に接触が
多い警察の方なので、「khon mii sii」は警察だと思われる。このような表現は、警察や軍人
が行う良い行為よりも、不正や違法な行為と関わっている場合に見られる。

12/W pen sǒŋkraan thǐi rái sǐi-sǎn [なし・色] sǎʔ cǐŋ cǐŋ.

まったく色のない(面白くない) ソングラーンの祭り¹⁰だった。

13/W dǐchǎn doon pǎai sǐi [塗る・色] wǎa mǎi dǐi, dooi thǐi mǎi pen khwaam-cǐŋ lǎoi sák nít dǐao.

私は無実にもかかわらず悪いと色を塗りつけられた(悪いと決めつけられた)。

例 12 の sǐi は sǐi-sǎn という形で用いられることが普通である。ここでの sǎn は具体的な意味がないが、sǐi の双声語だと思われる。rái sǐi-sǎn (色がない) は「面白くない」という意味で用いられる。そして、例 13 の「色を塗りつける」は「悪いと決めつける」といった意味合いで用いられている。

(2) dam (黒)

dam (黒) には、名詞が後続して、より限定的な色彩語となる表現はないが、dam tǎp-pèt (黒・肝臓・アヒル＝アヒルの肝臓のように黒い) といった表現はある。この表現は、アヒルの肝臓は黒いがとても美味しいのと同じように、肌は黒くても、女性として魅力があるという意味合いで用いられる。そこには、肌が黒いことは望ましくないと暗示されている。類似の表現が例 23 にも見られる。

dam (黒) は他の色と違い、pǎon (弱い＝薄い)、khēm (濃い)、mòn (くすんだ) などの修飾語を伴って黒の明暗や濃淡などの色合いを表す表現がないが、その黒さを強調する下記のような表現はある。

14/W nám khlǒŋ mǐi sǐi dam pǎu [黒い・黒さを強調する語].

川の中の水は dam pǎu (真っ黒) だ。

15/W ʔarai kǒ duu dǐi pai mǒt, sǐa yǎaŋ dǐao khǒ-sòk lé hǔa-khǎo dam pǐ [黒い・黒さを強調する語] chǐao.

どこをみてもきれいですが、肘と膝が dam pǐ (真っ黒) であるのは残念だ。

16/W rao cháit kuan-ʔim thaa kǒon nǒon, mǐa-kǒon rákrēe rao dam mítmǐi [黒い・黒さを強調する語], hǎn phǒn lǎoi.

昔、私の脇は dam mítmǐi (真っ黒) でしたが、グアンイムというクリームを使ったところ、よく効きましたよ。

17/W thammai mǐi pheendǎa thǔŋ taa dam pítpǐi [黒い・黒さを強調する語].

なぜパンダの目は dam pítpǐi (真っ黒) なのでしょう。

10 ソングラーンは 4 月 13 日のタイの旧正月のことであり、タイでは一年中で最も暑い季節であるため、13 日～15 日は水を掛け合って新年を祝う。しかし、2009 年のソングラーンはバンコックで赤いシャツを着た人たちによる大規模な暴動が起こったため、時期がずれる事態となり、一般の市民にとっては迷惑なこととなった。

18/P phûu-chaai sii hâa khon khùt thanôn kram dēt tântêe cháo yan khâm, tua dam má?miam [黒い・黒さを強調する語].

4-5 人の男たちは日差しを浴びながら朝から晩まで道路を掘っていたので、体は dam má?miam (真っ黒) になっていた。

19/P dèk liang khwaai nai thûn tua dam miam [黒い・黒さを強調する語] mǎn khwaai thîi liang lǎi.

野原で水牛の番をしている子供はその水牛と同じように体が dam miam (真っ黒) だ。

20/W mii ?arai baan yàan sôn yùu nai duan taa dam khláp [黒い・黒さを強調する語] khûu nán.

その dam khláp (真っ黒) の目には何か隠されている。

pǎu, pǐi, pítpǐi, mítmǐi, miam, má?miam, そして khláp は黒さを強調するために用いられ、日本語には、「真っ黒」と訳せるだろう。上記の例以外にも、dam păt と dam pútǎu というものも見られる。

dam (黒) は下記の例 21-22 のように反復表現としても用いられる。

21/W pen tùm dam dam [黒い・黒い] bon phǐu-nǎn trong bǎoriween klái nǎa-?òk khâan khwǎa khâ.

右側の胸の近くの皮膚に黒っぽい粒々ができた。

22/W phǒm dám dam [黒さを強調する語・黒い], ca plian sǐi phǒm dii mái nǎa.

私の髪の毛は真っ黒ですが、色を変えたらどう思いますか。

例 21 が、dam dam と反復されることで、日本語の「黒っぽい」と訳することができるように、黒さが曖昧に表現されるのに対し、例 22 のように、反復語にされるが、先行語の声調を高平調にすると、「真っ黒」の意味となり黒さが強調される。

23/W thǎn tua ca dam [体・助動詞・黒い] tēe kháo kô pen khon nǎa-rák ná.

身体は黒くても、彼は性格が可愛いですよ。

24/W mǎeo dam [猫・黒い] pen sǎnyalák khǎn khwaam-nǎa-klua. khon thai samǎi kòon thǎu kan waa hàak mǎeo dam [猫・黒い] khām loon sòp, sòp nán ca hían nák, rǎu hàak dǎon tát nǎa ca chòok ráai.

黒猫は恐怖のシンボルである。昔、タイ人は、黒猫が棺桶を跨ぐと、亡くなった人の霊は強くなるし、また誰かの前を横切ると、その人は悪運に見舞われると信じていた。

例 23 の「thǎŋ tua ca dam tɛɛ kǎo kô pen khon nâa-rák ná. (体は黒くても、彼は性格が可愛いですよ)」は、dam tǎp-pèt (肌は黒いが、女性としては魅力がある) と同様に、「性格が可愛い」を「肌が黒い」と対照的に用いられているので、肌が黒いことは望ましくないということを含意している表現である。また、例 24 で明らかなように、「黒い猫」は縁起の悪い猫とされている。

下記の例 25-27 では、dam (黒) は黒という色そのものの名詞ではなく、ある状態や性質を表す形容詞として用いられている。

25/W rǎaŋ cīŋ thūi yaŋ khon dam mǎut [黒い・暗い],

まだ事実は黒くて暗い (明らかではない) 話ですが、、、

26/W bai nâa ɲaam ɲaam, mǎi nâa cai dam [心・黒い] lǎəi kɛɛo-taa.

顔は美しいのに、なぜ心は黒い (残酷である) ののでしょうか。

27/W tàaŋ khon tàaŋ nâa dam khramkhriat [顔・黒い・没頭する], siiriat kàp kaan sòp khraŋ nīi kan yài.

皆没頭した黒い顔 (深刻な表情) をして一生懸命試験勉強をしている。

例 25 の「黒い」は明らかでないさま、例 26 の「心は黒い」は性格が残酷であること、そして、例 27 はストレスで表情が暗いという意味合いで用いられているように、黒色はマイナスのイメージで用いられることが多い。

(3) khǎao (白)

dam (黒) 同様に、khǎao (白) の場合も、名詞が後続して、より限定的な色彩語となる表現はない。それ以外の表現としては以下のようなものがある。

28/W [商品広告] khritsatān sīi khǎao sǎi [白い・透明である] tōnrap nâa rón.

khǎao sǎi (透き通った白色) のクリスタルで、夏を迎える。

29/W thūai kɛɛo sīi khǎao mōn [白い・くすんだ] bai nán thūuk thīŋ wái con fūn kòʔ krəʔkraŋ.

khǎao mōn (くすんだ白色) のコップは、ほこりまみれにほったらかされていた。

30/W thammai phīu-nǎŋ sūan thīi pīt phláatsatāo cūŋ khǎao sīit [白い・青ざめた]

なぜバンドエイドが貼られていた部分の皮膚は khǎao sīit (蒼白く) なるのだろう。

例 28-30 に示される khǎao (白) に後続する言葉は khǎao (白) の明暗などの色合いを表す言葉である。それ以外には、khǎao nuan (白い・なめらかな = なめらかで白い < 肌 >) も見られる。

- 31/W mæeo khăao manii pen mæeo thii sũai-ŋaam mâak,...phan thée tŋh mii sũ khăao plòt [白
い・すべて〜ばかりの] tháj tua.
カーオマニ — という猫はとてもきれいな猫であり、純血種は体全体が khăao plòt
(真っ白) でないといけない。
- 32/W mǎi dǎi cǎo sǒŋ pii thǎonán, phǒm khăao phloŋ [白い・明か明かと] pai tháj hũa.
会っていないのは二年だけなのに、髪の毛が(すべて) khăao phloŋ (真っ白) だった。
- 33/W ʔǎm sòt-sǎi, nǎa-rák mâak, pǒet lài khăao phòŋ [白い・汚れの無い].
アム (女優) は爽やかで、とても可愛くて、khăao phòŋ (真っ白) な肩を露わに
している。
- 34/W yím hén fan khăao rôo [白い・はつきりと見える] maa teè klai.
khăao rôo (真っ白) な歯を見せて微笑んでいるのが、遠いところからでもはつき
り見える。
- 35/W nóŋ ceen sǎo sǎi taa too khăao cúaʔ [白い・白さを強調する語].
ジェーンちゃん (女性の名前) は純粋な女の子、目が大きくて、肌が khăao cúaʔ (真
っ白) だ。

例 31-35 に見られる「khăao....」はすべてが日本語の「真っ白」に訳せるように、白さが
強調されている。それ以外にも、khăao wòk (白い・猿＝パウダーを真っ白に塗りたくっ
た顔の白さ) という表現も見られる。

- 36/W pen tùm sǎi sǎi sũ khăao khăao [白い・白い], pen maa síp peăt pii léeo khǎ.
透明で白っぽい出来物ができてからもう 18 年経っています。
- 37/P phǎo-mêe tua dǎm dam, thammai lúuk tua kháao khăao [白さを強調する語・白い].
親は真っ黒なのに、なぜ子供は真っ白なのだ。

例 36-37 は反復語の表現であるが、アクセントの違いで、例 36 は「白っぽい」となる
のに対し、例 37 は「真っ白」と白さが強調される表現となる。

- 38/W cǎo-sǎo chǎp sũam chút tǣŋŋaan sũ khăao [色・白い] phrǎʔ thǎu pen sũ bǎorisút [色・
純粋である].
白色は純粋の色だと思われているので、花嫁は白色のウェディングドレスを着る
ことを好む。
- 39/W wai dèk pen wai thii saʔàat bǎorisút mǎn phǎa khăao [清潔である・純粋である・〜の
ような・布・白い].
子供は白い布のように、清潔で純粋である。

40/W kəət ʔarai khân kàp prathêet thai thammai khăao pen dam, dam pen khăao [白・である・黒・黒・である・白].

タイでは何が起っているのだろう。白が黒になり、黒は白になっている。

41/D nísǎi khǒŋ khon thǎŋ sǒŋ tàŋ-kan mǎan sǐ khăao kàp sǐ dam [相違がある・～のように・色・白・～と～・色・黒].

二人の性格は白色と黒色が違うように全然違う。

khăao (白) は、例 38-39 で表現されているように、汚れのない、純粹さの比喩として用いられることが多い。例 40-41 では、物事の性質に極端な違いのあることを白色と黒色の違いと比喩されている。例 40 では、白は「正義」、黒は「悪」という意味合いで用いられている。

42/W méeo taa khăao [目・白い], mǎen rǎp thǎa kasit.

メーオ (タクシン元首相のあだ名) は目が白い (臆病)。カシット (外務大臣) の挑戦に応じない。

43/W chán kô yók thŏŋ khăao [上げる・旗・白い] náʔ, yók thŏŋ khăao nai thǎanǎʔ thǐi sǔai sūu chíi chíi thǎŋ lǎai mǎi dǎi.

私も白旗を上げる (降伏する)。彼女たちの美しさには敵わないので白旗を上げるの。

例 42-43 では、khăao (白) は色そのものとして示される表現ではない。例 42 では、「taa (目)」と共に、「taa khăao (目が白い)」となり、「臆病」という意味で用いられる。例 43 では、thŏŋ (旗) と共に、「thŏŋ khăao (白旗)」となって、「降伏」のシンボルという意味で用いられる。

(4) dɛɛŋ (赤)

dɛɛŋ (赤) には、名詞 (句) が後続し、dɛɛŋ cháat (朱の赤)、dɛɛŋ phlǎŋ (炎の赤)、dɛɛŋ lǎat-nók (鳥の血の赤)、dɛɛŋ lǎat-mǔu (豚の血の赤) という限定的な赤色を表す表現が見られる。

dɛɛŋ (赤) の明暗や濃淡などの色合いを表すのに、dɛɛŋ ʔǎŋ (赤・柔らかい / 弱い = 薄い赤)、dɛɛŋ kèe (赤・老いた / 熟した = 濃い赤)、dɛɛŋ khēm (赤・濃い = 濃くて深みのある赤)、dɛɛŋ sòt (赤・新鮮な = 鮮やかな赤) があるが、それ以外にも、下記のような表現がある。

44/W chǒp pháap phūuyǐŋ phǐu sǐ dɛɛŋ rǎa-rǎa [赤い・淡い].

淡い赤 (ほんのりと赤色) の肌の女性の写真が好きです。

- 45/W mǎa thùuk thǎam thǎn phǔu-chaai thǐi khuən ʔǝm nǎa dɛɛŋ kǎm [赤い・赤さを強調する語].
付き合っている彼氏のことを聞かれると、オーム（女性の名前）の顔は dɛɛŋ kǎm（真っ赤）になった。
- 46/P ca thaə lɛp sǐi dɛɛŋ cɛɛt [赤い・赤さを強調する語] yaŋŋii pai sǝp sǎmpǎat rǝu.
dɛɛŋ cɛɛt（真っ赤な）マニキュアを塗ったまま面接試験を受けに行くの？
- 47/W cǐŋcòk pralaat, sǐi dɛɛŋ pɛɛt [赤い・赤さを強調する語] thǎŋ tua.
変わったヤモリだ。体全体が dɛɛŋ pɛɛt（真っ赤）だ。
- 48/W prǎʔ-ʔaathit yaam cháos sǐi dɛɛŋ câa [赤い・赤さを強調する語] sǝaimâak, thǎai rūup wǎi lǎai bai.
朝日が dɛɛŋ câa（真っ赤）で、とてもきれいだった。たくさん写真を撮っておいた。
- 49/W talǎat hūn pǎan, tua dɛɛŋ thǝak [赤い・赤さを強調する語].
証券取引市場が dɛɛŋ thǝak（真っ赤）¹¹で、混乱している。
- 50/W fai lúk mǎi bâan dɛɛŋ chàan [赤い・赤さを強調する語].
火事が発生して家を dɛɛŋ chàan（真っ赤）に燃やしている。

例 44 の dɛɛŋ rǝa-rǝa は頬、唇などが本来もっているほんのりとした赤を表す場合に用いられ、きれいで、健康的という評価も含意されている。例 45-50 はすべて「真っ赤」と日本語に訳することができるように、赤さが強調される表現である。それらの例で示されているもの以外にもよく見られる「真っ赤」の表現には、dɛɛŋ cɛɛ, dɛɛŋ chɛɛt, dɛɛŋ prɛɛt というものがある。

- 51/W phǝm mii ʔaakaan khan taam tua, mii phǝun dɛɛŋ dɛɛŋ [赤い・赤い] thǐi khêen.
僕は全身痒くて、腕には赤っぽい色の湿疹があります。
- 52/W sǝa sǐi dɛɛŋ dɛɛŋ [赤さを強調する語・赤い], tɛɛ bɛɛp mǎi yūŋ-yâak.
真っ赤な服ですが、デザインはシンプルです。

例 51-52 は反復表現として用いられる。例 51 は日本語の「赤っぽい」と訳することができるように、赤さが曖昧になる。それに対し、例 52 は、先行語の声調を高平調にすると、「真っ赤」となり、赤さが強調されている。

- 53/W nǎk-rian yǐpūn yūun khǝn, nǎa dɛɛŋ [顔・赤].
日本人の学生は照れて、顔が赤くなっている。

11 dɛɛŋ thǝak = 株価を表示しているボード一面が赤い文字（マイナスの数字）で埋まっている様子。

- 54/W phỏò kròot, nâa deen [顔・赤い].
父は怒って、顔が赤くなった。
- 55/W deen [赤] wǎn lóm ʔamnâat rât.
赤（共産主義者）は政府を倒そうと図り事をしている。
- 56/W sòom deen [朝鮮ニンジン・赤い] yòok khloón khwaam pen nák sǎntiphâap khǒn yípùn.
赤い朝鮮ニンジン（北朝鮮）は平和主義者である日本を揺り動かす（脅かす）。
- 57/W chao khorâat ruam phalaŋ khào cêeŋ cǎp hǎaŋ deen [尻尾・赤い] thǒoi.
コーラートの市民は一丸となって野蛮な赤い尻尾（赤シャツの人たち）を警察に届け出た。
- 58/P sǎa cai dúai thǐi thǎo mǎi châi hǎa deen [頭・赤い], thǎa pen hǎa deen [頭・赤い] la kǎ mii khon khào maa pen phǎan kǎp thǎo ʔeŋ lǎ?
あなたは赤い頭（西洋人）ではないので残念ですね。あなたが赤い頭（西洋人）だったら、ほっといても友達が出来のよ。
- 59/P thon dǎi mǎi thǎa mii lúuk pen dèk hǎa deen [子供・頭・赤い] léeo doon phǎan phǎan ran kǎe nǎ?
赤い頭の子供（西洋人との間の混血の子供）ができれば、その子が友達に虐められることに我慢できますか。

例 53-54、そして、例 56-59 の deen（赤）は修飾語として、赤色から連想するある特定の状態や人間を示す表現として用いられている。「nâa deen（顔が赤い）」は、酔う、または恥ずかしい、怒るという感情に言及するときに用いられる表現である。名詞として用いられる例 55、そして、例 56-59 はある特定の国、集団、政治的な理念、または身体的な特徴を持っている人たちを表す。例 55-56 の deen（赤）は、昔から悪役とされていた共産主義を連想させる。例 57 の hǎaŋ deen（赤い尻尾）は、2007 年に結成された「neo-rûam prachaathippatai khǎp-lǎi phadètkaan (Democratic Alliance Against Dictatorship, DAAD)」という政治的活動団体であり、タクシン元首相の不正に抗議をする黄色いシャツを着た人たちに対抗して、赤いシャツを着てタクシン元首相を支持する行動をとっていた人たちのことを指す、侮蔑の表現である。例 58 の hǎa deen（赤い頭）は西洋人の呼び名の一つであり、そこには不満や批判的な感情がある。また、例 59 の dèk hǎa deen（赤い頭の子供）は西洋人との間の混血の子供を差別的に呼ぶ言葉である。

- 60/D thǎa khwaam lǎp deen khǎn [赤い・～なる] maa, léeo ca ʔao nǎa pai wái thǐi nǎi.
もし秘密が赤くなった（ばれた）らどこへ顔向けができようか。

- 61/W rao tɔ̃n phũut kan hâi hẽn dam hẽn dɛɛŋ [見える・黒・見える・赤].
 私たちは黒・赤が見える (はっきり決着する) ように話合わないといけない。
- 62/W kantanaa choo phõn-ŋaan chín boo dɛɛŋ [リボン・赤い], ʔanimeechân sãam míʔtiʔ.
 カンタナー (映画のプロデューサー) は赤いリボン (最高級) の作品である 3D アニメーションを公開した。
- 63/W pèet hũa-còok nɔ̃n khúk, kin khâao dɛɛŋ [食べる・ご飯・赤] tòɔ.
 8 人のリーダー達は刑務所で寝て、続けて赤いご飯を食べる (玄米を食べる)。
- 64/W kəət ʔaakaan loŋ dɛɛŋ [降りる・赤], rɔɔ mǎi wǎi, tɔ̃n maa rabaai nai blók khǝŋ tua ʔeɛŋ.
 禁断症状が出て (我慢できなくなつて)、自分のブログで発散しなければならなかった。

例 60-64 の dɛɛŋ (赤い) は赤色そのものではなく、単独で、または他の言葉と共に、ある特定の状態や性質を表す。例 60 では、動詞として用いられ、「ばれる」という意味で用いられる。例 61 の hẽn dam hẽn dɛɛŋ [見える・黒・見える・赤] は「よいのか悪いのか、また間違いなのか正しいのかがはっきりとする状態」を意味するように、「悪い」や「間違い」を含意している黒との対照表現として用いられる。一方、例 62 の boo dɛɛŋ [リボン・赤い] は優秀や優等を含意する。例 63 の kin khâao dɛɛŋ [食べる・ご飯・赤] の khâao dɛɛŋ は玄米のことを指す。昔、刑務所に入った人には、白米ではなく、玄米を食べさせた。転じて現在では、kin khâao dɛɛŋ は刑務所に入るという意味で用いられる。また、例 64 の loŋ dɛɛŋ [降りる・赤] は、元来、血便の下痢をするといったアヘンや麻薬の禁断症状について言う表現であるが、現在では我慢できなくなったことを意味する表現としても用いられる。

(5) khǝao (緑)

khǝao (緑) には、khǝao bai mǎi (樹葉緑)、khǝao tɔ̃n ʔɔ̃n (バナナの若葉緑)、khǝao khii mǎa (馬糞の緑)、khǝao hũa pèt (アヒルの頭の緑)、khǝao yòk (ヒスイの緑) のように、名詞 (句) が後続し限定された緑を表す色彩語が見られる。

khǝao (緑) の濃淡などの色合いを表すのに、khǝao sòt (緑・新鮮＝新鮮な緑、鮮やかな緑)、khǝao mòn (緑・くすんだ＝くすんだ緑)、khǝao ʔɔ̃n (緑・弱い / 柔らかい＝薄緑)、khǝao kèe (緑・老いた / 熟した＝濃い緑)、khǝao khêm (緑・濃い＝濃くて深みがある緑) がある。また、khǝao (緑) を修飾し緑の状態を強調する語も下記の例のように多く見られる。

- 65/P lǝak mǎak, mɛɛ-khǝa mɔ̃ŋ taa khǝao pát [目・緑・緑を強調する語].
 あまり選ぶすぎたので、店のおばさんは真緑の目 (激怒の眼) をしてにらみつけた。

- 66/W carakhêe phûak nîi khonj mâi dài ʔàap náam maa naan, takhrâi khân khǎao ʔǎu [緑・緑を強調する語] ləoi.
これらのワニはおそらく長い間お風呂に入れてもらっていない。体中に khǎao ʔǎu (真緑) の苔がいっぱい生えている。
- 67/W nám phák sǐi khǎao pǐi [緑・緑を強調する語], tháathaaj khôm.
野菜ジュースは khǎao pǐi (真緑色) なので、苦そう。
- 68/P kamlaj ca thaaj yùu léeo, hèn nõn tua khǎao ʔi [緑・緑を強調する語] kadúp kadúp yùu nai phák, ləoi hǎi yàak thanthii.
食べようとしたんですが、khǎao ʔi (真緑) の虫が野菜の中で動いているのを見たら、食べる気がなくなった。

例 65-68 の khǎao pát, khǎao ʔǎu, khǎao pǐi, khǎao ʔi 以外に、khǎao cǐi, khǎao prěe, khǎao prěn, そして khǎao préet という表現も見られる。すべては日本語に「真緑」と訳せるが、色の濃さが強調される表現である。

また khǎao にも、khǎao khǎao (緑っぽい) と **khǎao** khǎao (真緑) という反復語表現がある。前者は緑の曖昧さを表現し、後者は緑の濃さを強調する。

khǎao は修飾語として用いられる。下記の例で示されているように、先行名詞の性質、状態、表情、そして感情を比喩的に表現する。

- 69/P dèk rún mài nîi mài mii khrai rúcàk phim khǎao [印刷・緑] kan léeo.
今の若者でブループリントを知っている人は誰もいない。
- 70/D kháo thùuk sóom nǎa khǎao taa khǎao [顔・緑・目・緑] pai mòt.
彼は袋だたきにあって顔と目が緑 (顔中青あざだらけ) になってしまった。
- 71/D nǎao con pàak khǎao [口・緑].
口が緑 (唇が青) になるほど寒い。
- 72/D kháo khân sǎaj khǎao [声・緑] káp chán.
あの人は緑声 (怒気を帯びた声) を私にぶつけた。

例 69-72 で表現されているように khǎao は日本語では「青」と訳することができる。

- 73/W naayók fai khǎao [信号・緑] FBI rúam-muu tamrúat thai khliia pom kharadiin.
首相はキャラダイン (アメリカの俳優) 事件をタイの警察と協力して解明したいという FBI の要求に緑の信号を送った (自由にやらせた)。

74/W khun-naai khon nán maa tòk khǎo [釣る・緑] thii mùu-bân khǎo rao ʔlik léeo.

その夫人はまた我々の村に緑を釣り（若い女性を騙し）にきている。

75/W kaan khoosanaa chuan-chǎa thii waa thaa lǎk rátthabaan kláp khǎo maa mài léeo, ʔlik sii pii khǎa nǎa khon con kô ca mòt pai càak prathêet thai sǎn riák nǎai nǎai waa rátthabaan tòk khǎo [釣る・緑] dooi kaan wàan nǎoppramaan loŋ pai nai phǎnthii yàaŋ mǎak.

ある地域に大量のお金をばら撒く方法を使い、今の政府が再選されたら4年後にはタイでは貧しい人がいなくなる、と甘い言葉で（投票を）誘うことは、言うなれば、政府は緑を釣って（莫大なお金をばら撒けば、また政権を握れると期待して）いるということである。

例 73-75 では、khǎo（緑）は緑色そのものを表すのではなく、他の言葉と共に、ある特定の行動を表す表現となる。例 73 の fai khǎo（青信号）は動詞として、妨げずに自由に行かせる（やらせる）という意味合いで用いられる。例 74 の tòk khǎo（釣る・緑）は、北部タイの村にいる未成年の女の子の親に金銭を渡して、その娘をバンコクや外国で売春をさせることを意味しているが、最近では、後の利益のためにある投資をしておくという場合にも用いられるようになっている例 75 のように意味の展開がしばしば見られる。

(6) lǎaŋ（黄）

lǎaŋ（黄）には、lǎaŋ dòok-bùap（ヘチマの黄色）、lǎaŋ dòok-thaan-tawan（向日葵の黄色）、lǎaŋ lûuk-ciap（ひよこの黄色）といったように、名詞（句）が後続すると、限定的な黄色を表す表現となる。

lǎaŋ（黄）の濃淡を表す lǎaŋ ʔdôn（黄・柔らかい / 弱い＝薄い黄）、と lǎaŋ kée（黄・老いた / 熟した＝濃い黄）という表現がある。また、日本語の、「真黄」にあたる黄色さを強調するのには、lǎaŋ câa と lǎaŋ ʔsɔi という表現がある。

76/W pen nǎnsǎu thii hǎa yǎak, kradaat kào kròp lǎaŋ ʔsɔi [黄・黄色の状態を強調する語] ləoi.

その本はなかなか手に入らなかった。紙がぱりぱりで lǎaŋ ʔsɔi（真っ黄色）です。

反復表現としては、lǎaŋ lǎaŋ（黄色っぽい）と lǎaŋ lǎaŋ（真黄）がある。前者は黄を曖昧に表現し、後者は黄色の色合いを強調する。

77/P mǎe dii-cai con nám-taa lǎi mǎa hǎn lûuk-chaai hòmm phǎa lǎaŋ [纏う・布・黄].

母は黄色衣を纏っている（僧侶に出家している）息子を見て、涙が出るほど喜んでいた。

78/W chán mâi châi dɛɛŋ, mâi châi lǎaŋ [黄], chán sǐi khǎao câʔ.

私は赤 (赤色のシャツを着る人たちの味方) でもなく、黄 (黄色のシャツを着ている人の味方) でもない。私は白 (中立) だ。

例 77-78 では、lǎaŋ (黄) という色からある特定の人たちを連想させる表現である。phâa lǎaŋ (黄色衣) は僧侶のシンボルとして用いられている。また、phûak sǎa lǎaŋ (連中・服・黄＝黄色のシャツの連中) は「phanthamít prachaachon phâa prachaathippatai (People's Alliance for Democracy, PAD)」という政治活動団体を呼ぶ言葉として用いられている。2005 年あたりから、当時の首相の辞任を求めるためにデモをする人たちが黄色のシャツを着ていたことからその名が由来する。黄色は国王の誕生曜日である月曜日の色なので、国王を支持するその組織のシンボルカラーとして使われている。それ以外に、リンパ液を意味する nám-lǎaŋ [水・黄] という表現もある。

79/W bòk léeo, kwàa ca lùt maa dâi mâi taai kô khaaŋ lǎaŋ [顎・黄].

言ったじゃない、帰ってこられるまで死ななかったとしても、khaaŋ lǎaŋ (瀕死の重傷を負う) だろう、って。

lǎaŋ (黄) は khaaŋ (顎) と共起し、khaaŋ lǎaŋ (黄色の顎) となると、黄という色そのものではなく、手痛い目にあったことを意味する¹²。

(7) nám-ŋən (青)

英語の blue や日本語の「青」に相当するものと言えば、まずタイ人が思い浮かぶ言葉は nám-ŋən であろう。nám は水であり、ŋən は銀であるが、熟語である nám-ŋən が blue や「青」を表す言葉として用いられている理由はまだ不明である。Berlin B. and Kay P. [1968] は英語の blue に当たるタイ語として fá·(空)を取り上げている [1968(1999):101] が、例 80-82 のように、blue を、タイ語では sǐi fáa(色・空＝空色)、sǐi krommathâa (色・krommathâa¹³＝濃紺 /navy blue)、または sǐi khraam (色・藍＝藍色 /indigo blue) と翻訳することもできる。

80/W Japanese schoolgirl wear blue skirt with white blouse.

nák-rian yǐŋ yǐpùn sài sǎa khǎao kàp kraprooŋ sǐi krommathâa.

81/W I want a blue pen.

phǒm yàak dâi pàakkaa sǐi nám-ŋən/sǐi fáa/sǐi krommathâa/sǐi khraam.

12 顎先は急所の一つで、そこを蹴られたりすると死なぬまでも、非常に痛い目にあう。昔 phlai(ショウガによく似ている植物) の黄色い根をこすりつけて治療した [富田 1990:372]。

13 krommathâa は現在の大蔵省と外務省に相当する官庁であり、sǐi krommathâa はその職員の制服の色が濃紺だったところからこう呼ばれている。

82/W In the blue sky flows a big white cotton cloud,,,,,
 mèek sǐi khǎao kǎon too lǝŋlǝoi yùu bon thǝŋ-fǎa sǐi fǎa/sǐi khraam,,,,,

英語の blue をタイ語に正確に翻訳することは容易ではない。実際の色を見る必要がある場合もあれば、その色が言及されている状況に配慮する必要がある場合もある。例 80 は日本人の女子学生の制服を見たことがあるなら、その blue を sǐi fǎa とは表現しないだろう。例 81 の、blue は、sǐi nám-ŋən, sǐi fǎa, sǐi krommathâa, sǐi khraam のすべての表現に訳すことができるが、実際の色を見ないとどれが適当かは分からない。一方、例 82 は空のことなので、sǐi fǎa または sǐi khraam となるだろう。また、日本語の「青信号」や「青痣」の青は、タイ語では「fai khǎao (信号・緑)」、「rǝoi khǎao (痕・緑)」というように、青ではなく緑と表現される。

krommathâa と khraam はそれ自体が限定の色を指しているの、その色合いを修飾するためにさらなる形容詞を付けて表現されることはないし、曖昧にしたり、強調したりする表現も見られない。nám-ŋən と fǎa には、それぞれの色の濃淡を表すのに nám-ŋən kèe (濃い青)、nám-ŋən ʔǝon (薄い青)、nám-ŋən khêm (濃紺)、fǎa kèe (濃い空色)、fǎa ʔǝon (薄い空色)、fǎa khêm (濃くて深みのある空色) しかない。反復表現については、nám-ŋən nám-ŋən (青っぽい色)、fǎa fǎa (青っぽい色) という色合いの曖昧さ、そして *nám-ŋən nám-ŋən* (真っ青な色)、*fǎa fǎa* (鮮やかな空色) という色合いの強調が見られる。また、nám-ŋən, krommathâa, khraam は場合により、「nám-ŋən nám-ŋən (青っぽい)」と表現されることも見られるが、fǎa は「nám-ŋən nám-ŋən (青っぽい色)」と表現されることは見られない。このことから、タイ人にとっては、fǎa は nám-ŋən とは別の色として認識していることと解釈できる。

「青」、「blue」、「nám-ŋən」の示す色が全く同じものではないことは、John Lyons が指摘している「ある特定の言語の色彩語は必ずしももう一つの言語の色彩語と一致するとは限らない」の一つの例であろう。

krommathâa, khraam, nám-ŋən, そして fǎa には色そのものを表す以外の表現は見られない。sǐi (色)、dam (黒)、khǎao (白)、dɛɛŋ (赤)、khǎao (緑)、そして lǝaŋ (黄) のように修飾語が後続し、それらの色の濃さや派手さ、または純粋さを強調することなく、かつ、それらの色が修飾語として他の言葉と共に起する表現も見られない。

(8) nám-taan (茶)

nám-taan (ヤシ砂糖) はサトウヤシから出来たタイの砂糖である。sǐi nám-taan はその砂糖の色から来ている。nám-taan には名詞 (句) が後続し更なる限定的な色を表す表現は見られないが、その濃淡を表す表現には nám-taan mâi (色・砂糖・焦げる＝焦げ茶)、nám-taan kèe (濃い茶)、nám-taan ʔǝon (薄い茶)、nám-taan khêm (濃くて深みがある茶)

という表現がある。また反復表現としては、*nám-taan nám-taan*（茶色っぽい）と曖昧に表現されたり、*nám-táan nám-taan*（真っ茶色）と強調されたりするものが見られる。それ以外に、*nám-taan*（茶）という言葉からなる表現は見られない。

(9) *mũaṇ*（紫）

mũaṇ（紫）の濃淡を表す表現として、*mũaṇ kèe*（濃い紫）、*mũaṇ ʔòṇ*（薄い紫）、*mũaṇ khêm*（濃くて深みのある紫）が見られるし、*mũaṇ mũaṇ*（紫っぽい色）と曖昧な表現や、*mũaṇ mũaṇ*（真紫色）と強調の表現も見られるが、それ以外には、*mũaṇ*（紫）よりさらに限定的な色を表す表現や、*mũaṇ*（紫）が他の言葉と共起する表現などは見当たらない。

タイの伝統では、*sĩ mũaṇ* は *mêe mâai*（夫と死別したり、離婚した女性）の色とされている。そのような考えは現在でも残っており、さらに、*chaao sĩ mũaṇ*（人たち・紫色＝紫色の人たち）という表現も出てきており、例 83 のように広く用いられるようになっている。この表現は同性愛者（通常男性同性愛者）を示す表現でもある。*mêe mâai* と同じように、同性愛者も社会の中で孤独な存在と思われるところから彼らを表する色として紫が使用されているという説もあれば、男性のシンボルの色である青と女性のシンボルである赤が混ぜあわさって出来る紫と同じように、女性志向の男性や男性志向の女性、また異性ではなく同性を愛すること、つまり、それまでの既成概念としての男性でもなく、女性でもない第三の性、というところから、青だけでもなく赤だけでもない、青と赤から出来る紫とされたという説もある¹⁴。

83/W *thâa rao sảṇkèet dii dii ca phỏp wả khon kẻṇ nai dản tảṇ tảṇ nai sảṇkhom rao thủk wan nủi, sủan mảak lẻo pen khon nai wỏṇkaan chaao sĩ mũaṇ nủi ʔẻeṇ.*

よく考えてみると、現在我々の社会の中のいろんな分野で活躍している人たちの多くは紫色の人たちであることに気がついた。

(10) *chomphuu*（ピンク）

chomphuu（ピンク）は例 84 にあるように、愛の色、幸せの色として用いられることが多い。また、*kẻe*（濃い）、*ʔòṇ*（薄い）、*khêm*（濃くて深い）という言葉で修飾し表現されている場合と、*chomphuu chomphuu*（ピンクっぽい色）と曖昧に表現したり、*chomphủu chomphuu*（真っピンク色）と強調したりすることがある。例 85 のように *pẻn* という言葉が後続して *chomphuu pẻn*（どピンク、すごいピンク）となり、ピンクの派手

14 タイの学校、公園など公共の場でのトイレの標識にもしばしば見られるように、色の使い分けによる男女の区別はない。男性用も女性用も同じ色が使われているのが一般的である。タイではもともと男性色、女性色が決められていなかった。そのため、青は男性の表象の色、そして赤が女性の表象の色、という考えは本来タイの社会にはなかったと考えられる。従って、*chaao sĩ mũaṇ* という表現の由来が男女のシンボル色から来たとするならば、おそらくは外来のものであり、元々タイの社会で発想されたこととは考え難い。

さを強調する。それ以外には、chomphuu (ピンク) よりさらに限定的な色を表す表現や chomphuu (ピンク) が他の言葉と共に起る表現などは見当たらない。

84/W khon thii yùu nai lóok sǐi chomphuu [世界・色・ピンク] ~~khuu~~ khon thii kamlaŋ mii khwaam rák.

ピンク色の世界にいる人は恋愛をしている人である。

85/P khanóm khéek sǐi chomphuu pǎen [ピンク・ピンクの状態を強調する語] yaŋŋán, chán mǎi kláa kin ròok, klua.

私は、あのようなすごいピンク色のケーキは怖い。食べる勇気がない。

(11) sôm (オレンジ)

英語の orange はタイ語に翻訳すれば、sǐi sôm (蜜柑色)、または sǐi sǎet¹⁵ (橙色) となるが、日常生活では、sǐi sôm (蜜柑色) の方がよく用いられる。sǐi sǎet (橙色) は sǐi sǎet と表現される場合しかないのに対し、sǐi sôm (蜜柑色) には kǎe (濃い)、~~ǎon~~ (薄い) という修飾語を付けたり、sǐi sôm sôm (オレンジっぽい色) と曖昧に表現したり、sǐi **sóm** sôm (真オレンジ色) と強調したりすることがある。また、下記の例 86 のように、pǎet という語が後続して、sôm (オレンジ) の派手さを強調する表現もあるが、それ以外には、sôm (オレンジ) よりさらに限定的な色を表す表現や sôm (オレンジ) が他の言葉と共に起る表現などは見当たらない。

86/W pǎai sǐi sôm pǎet [色・オレンジ・オレンジ色の状態を強調する語], duu léeo sǎep taa cii cii.

看板の色は sôm pǎet (すごいオレンジ色) なので、見ると本当に目が痛くなる。

(12) thao (グレー)

sǐi thao (灰色) の thao は khǐi thao (灰) の色から来ている。thao ~~ǎon~~ (薄いグレー)、thao kǎe (濃いグレー)、thao khēm (濃くて深みのあるグレー) というグレーの濃淡を示す表現と、thao thao (グレーっぽい)、**tháo** thao (すごいグレー) とグレーの色合いを曖昧に表現したり、強調したりするものがあるが、それ以外の表現は見当たらない。

3. タイの色彩語の表現法と意味

タイの基本色彩語は、それぞれの言葉が表わす具体的な色彩そのものの意味を持つ表現として用いられることは言うまでもないが、それ以外にも様々な表現法を通して生み出される色彩の種類や意味等があることをそれぞれの色彩別に示してきた。それらを表現法別

15 sôm はミカン科の果樹の総称であり、sǎet はベニノキ科の植物でありチョコレートやマーガリンの着色や布の染料に用いる [富田 1990]。

にまとめると次のようになる。

(1) 基本色彩語から派生させる表現法

1.1. 色彩語に他の名詞（句）が後続する場合：sii（色）は、dam（黒）、khăao（白）、dɛɛŋ（赤）、khiao（緑）、lǎaŋ（黄）、nám-nɔn（青）、nám-taan（茶）、muaŋ（紫）、chomphuu（ピンク）、sôm（オレンジ）、thao（灰）という言葉が後続すると、その特定の色彩を示すことは言うまでもない。sii（色）だけで使われる場合、そこには dam（黒）・khăao（白）を含めた色全体を表す場合と、dam（黒）・khăao（白）との対照としての dam（黒）・khăao（白）を含めない色全体を表す場合があり、どちらを意味するかは文脈によって決まる。例1では、まず dam（黒）と khăao（白）が後続してその2色を特定し、その後に sii（色）が使われているので、この場合の sii（色）は dam（黒）・khăao（白）の対照としてそれ以外の色を意味している。dɛɛŋ（赤）、khiao（緑）、lǎaŋ（黄）の3つの色彩語においては、他の名詞（句）が後続すると、それぞれの色彩におけるさらに限定的な色彩語が生み出される。dɛɛŋ（赤）には dɛɛŋ châat（朱の赤）や dɛɛŋ phlœaŋ（炎の赤）など4つの限定的な赤の色彩語が見られる。同じように、khiao（緑）には khiao tɔɔŋ-ʔɔɔn（パナナの若葉緑）など8つ、そして、lǎaŋ（黄）には lǎaŋ dòk-buap（ヘチマの黄色）など3つ、の派生色が見られる。それらの後続語句はすべて具体的な物の名称や現象から来たとと思われる。一方、dam（黒）、khăao（白）、nám-nɔn（青）、nám-taan（茶）、muaŋ（紫）、chomphuu（ピンク）、sôm（オレンジ）、thao（灰）にはこの種の表現は見られない。

1.2. 色彩語に修飾語が後続する場合：色彩語に他の名詞（句）が後続する場合は、それぞれの色彩のさらなる限定的な色彩語が生み出されるのに対し、修飾語が後続する場合、それぞれの色彩の色合いをより限定的なものにする。色彩の総称である sii（色）には様々な明暗や濃淡などの色合いを表す修飾語が後続する。一方、特定の色彩語の場合は、濃淡を表す、ʔɔɔn（弱い / 柔らかい＝薄い）、kɛɛ（老いた / 熟する＝濃い）が後続する表現は dam（黒）と khăao（白）以外のすべての色彩語に見られる。dam（黒）、khăao（白）、lǎaŋ（黄）、sôm（オレンジ）以外のすべての色彩語に khêm（濃い＝濃くて深みがある）が後続する表現が見られる。そして、dɛɛŋ（赤）には sòt（新鮮＝鮮やかな）、khiao（緑）には sòt（新鮮＝鮮やかな）と mòn（憂鬱な＝くすんだ）という明暗を表す修飾語も後続する。一方、khăao（白）には濃淡を表す修飾語が後続しないが、sǎi（透明である）、mòn（憂鬱な＝くすんだ）、sǐit（青ざめた）、nuan（なめらかな）という明暗などの色合いを表すものが後続する。また、dam pǎu（真っ黒）、khăao cúaʔ（真っ白）、dɛɛŋ cháan（真っ赤）、dɛɛŋ céet（真っ赤）、khiao ʔǎu（真緑）、lǎaŋ ʔɔɔi（真黄）、chomphuu pɛɛn（どピンク）、sôm péet（すごいオレンジ）のように、dam（黒）、khăao（白）、dɛɛŋ（赤）、khiao（緑）、lǎaŋ（黄）、chomphuu（ピンク）、sôm（オレンジ）には、日本語での「真～」または「すごい～」という色の濃さや派手さ、または純粋さが強調されるような表現も多く見られる。この種の表現は、dam（黒）には9つ、khăao（白）には6つ、dɛɛŋ（赤）には9つ、

khiao (緑) には8つ見られるので、2 つしか見られない lǎaŋ (黄)、そして1つしか見られない chomphuu (ピンク) と sôm (オレンジ) と比べるとかなり多いと言える。しかし、nám-nəŋ (青)、nám-taŋ (茶)、múaŋ (紫)、thao (灰) にはこの種の表現は見られない。

1.3. 反復表現: すべての色彩語に、反復語として他の名詞 (句) を修飾する表現が見られる。反復語における先行語と後続語が同じ声調であれば、日本語の「～っぽい」と訳すことができるように、色彩を曖昧に表現する¹⁶。しかし、先行語を高平調にすると「真～」となるように、色彩の濃さや派手さを強調する。

(2) 比喩法

2.1. 直喩法: 例 41 のように物事の性質に極端な違いがある場合に、「khǎao (白) と dam (黒) ほど違う」と比喩される。また、例 39 のように、khǎao (白) は修飾語として、純粋さの比喩として用いられる。この種の表現法は khǎao (白) と dam (黒) にしか見られない。

2.2. 隱喩法: 色彩語はそれぞれの色から意味的な発展が見られ、色そのものを表すのではなく、ある特定の人、または状態、性質を暗示し、または象徴する言葉としても用いられる。この種の表現法は sǐi (色)、dam (黒)、khǎao (白)、dɛɛŋ (赤)、khiao (緑)、lǎaŋ (黄)、múaŋ (紫)、そして、chomphuu (ピンク色) にしか見られない。sǐi (色) には mii sǐi (色がある) と mǎi mii sǐi (色がない) といった対照的な表現がある。例 9-11 のように、軍人や警察といった権力のある人たちを指す khon mii sǐi (色がある人) に対して、khon mǎi mii sǐi (色がない人) は、「一般の市民」、「権力のない人」を暗示する表現として用いられる。dam (黒) には、例 23-24、と例 40 のように、望まれない状態、汚れ、悪質、そして縁起が悪いといった負のイメージがある。それに対し、khǎao (白) は例 38 と例 40 のように、清潔、純粋、正義の象徴とされ、dam (黒) とは対照的な含意を持つ。dɛɛŋ (赤) は、例 53-59 のように、ある特定の状態、感情、身体の特徴、政治的な理念を暗示し、象徴する。khiao (緑) は例 70-72 のように、怒りの感情、そして痛みや寒さによって引き起こされた感覚や表情を連想させる。lǎaŋ (黄) は例 77-78 のように、僧侶やある政治的な理念を持っている団体を象徴する。múaŋ (紫) は例 83 のように孤独や寂しさを象徴する。そして、chomphuu (ピンク) は幸せな感情を連想させる。

(3) 慣用的な表現法

色彩語は単独または他の語句と共起すると、色彩そのものを示すのではなく、ある特定の意味を表す慣用句となる場合がある。この種の表現法は sǐi (色)、dam (黒)、khǎao (白)、

16 同じ声調でも、先行語が長母音の場合、短母音で発音されることがしばしば見受けられる。たとえば、dɛɛŋ (赤) の場合、「dɛɛŋ dɛɛŋ (赤っぽい)」のところ、先行語の長母音の dɛɛŋ が短母音の dɛŋ となったりする。dɛɛŋ (赤) 以外では、sǐi (色) が「sǐi sǐi / sǐi sǐi (どちらかと言えば色がある方)」、khǎao (白) が「khǎao khǎao / khǎo khǎo (白っぽい)」、そして fǎa (空) が「fǎa fǎa / fǎ fǎa (青っぽい)」となる。

dɛɛŋ (赤)、khǎo (緑) そして, lǎŋ (黄) には見られるが, nám-nɔn (青)、nám-taan (茶)、múŋ (紫)、chomphu (ピンク)、sôm (オレンジ)、そして thao (灰) には見られない。sǐi (色) は、例 12 の rái sǐi-sǎn (色がない) と例 13 の pǎai sǐi (悪いと決めつける) に見られるように、活気や華やかさを含意する一方、悪質な物も含意する。dam (黒) は、例 25 の dam-mâut (明らかではない)、例 26 の cai-dam (残酷である)、そして例 27 の nǎa dam khrâmkhríat (深刻である) のように、不透明な状態、残酷な性格、暗い雰囲気という意味合いとしてよく用いられている。khǎao (白) は、例 42 の taa khǎao (臆病である)、そして例 43 の yók thoŋ khǎao (降伏する) のように、弱さを含意する。dɛɛŋ (赤) は、動詞として単独で用いられ、「ばれる」の意味合いを持つ例 60、そして、「はっきりと決着する」という意味合いを持つ例 61 の hěn dam hěn dɛɛŋ (白黒をつける) のように、内意、密意、内密を含意する dam (黒) に対し、表出、明示の意味合いを持ったり、例 63-64 のように身の不自由さや精神的な限界といった望ましくない状態を表したりする場合もあるし、例 62 の boo dɛɛŋ (最高級) のように特に優れた様を意味するものもあり、幅広い表現を持つ。khǎo (緑) は、例 73 の fai khǎo (認める) は妨げずに自由に行かせること、例 74-75 の tòk khǎo (若い女性を騙す) に見られる khǎo (緑) は若さを象徴するが、利益を得るために何らかの餌を与えておくような行動をとるということにも意味的展開が見られる。そして、lǎŋ (黄) は、例 79 の khaaŋ lǎŋ (瀕死の重傷を負う) のように、汚れているや痛ましい状態を表わすように、あまり望ましくない状態を含意する。

上記のそれぞれの表現法において違った内容の語句が、今回の資料の中にどれぐらいの数で見られるかを色彩語別に表にまとめると以下の通りとなる。

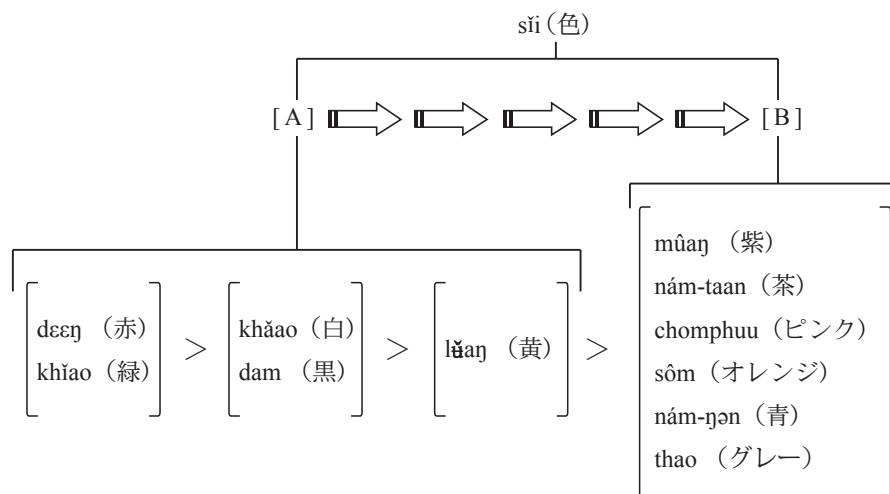
表現法／ 色彩語	色彩の種類および色合いを持たせる表現法					比喩法		慣用 表現
	色彩語 ＋ 名詞 (句)	色彩語＋修飾語		反復語		直喩	隱喩	
		明暗／ 濃淡 などの 色合い	濃さ／ 派手／ 純粋さ の強調	曖昧化 する	強調 する			
sǐ 色	13	13	5	1	1	×	1	2
dam 黒	×	×	9	1	1	1	3	3
khǎao 白	×	4	6	1	1	2	2	2
dɛɛŋ 赤	4	5	9	1	1	×	7	5
khǎao 緑	5	5	8	1	1	×	4	2
lǎaŋ 黄	3	2	2	1	1	×	3	1
nám-ŋən 青	×	3	×	1	1	×	×	×
nám-taan 茶	×	4	×	1	1	×	×	×
mûaŋ 紫	×	3	×	1	1	×	2	×
chomphu ピンク	×	3	1	1	1	×	×	×
sôm オレンジ	×	2	1	1	1	×	×	×
thao 灰	×	3	×	1	1	×	×	×

4. 色彩語の表現法の特徴およびそこに見るタイ人の色彩に対する認識と意識

タイの色彩語表現法およびそれらの表現法により生み出される色彩の意味的な特徴およびそこに見るタイ人の色彩に対する認識と意識は次のように考えられる。

タイの色彩語の表現には、基本色彩語から様々な表現法を通して生み出された色彩語の語（句）が多く見られることが確認された。特に、すべての色彩語に見られる、反復語表現や声調の特徴を通して生み出された色彩表現がその基本の色彩語が示し表わす色より曖昧になったり、意味領域が広がったり、また逆に色合いの程度が強調されたりするところは声調が意味に影響を与えるタイ語の特徴的な表現法であると言える。さらに、特定の名詞（句）や修飾語と共起することで、それぞれの色彩語が表わす基本の色から、様々な限定的色彩、また、それぞれに違った色合いそして派手さを持つ多種多様な色彩表現が生み出される。タイ人は、色彩を単純にその色彩語が表わす色そのものだけではなく、同じ色彩の明暗や濃淡などの色合いの微妙な違いをも常に意識し言葉で表現するということも明らかである。一方、基本色彩語は名詞、動詞、または修飾語として単独で、さらに他の語句と共起して比喩法や慣用的な表現法で用いられたりすることにより、色そのものではなく、ある特定の人における身体的・精神的状態や性質、世代、倫理、理念、また、ある出来事における状態を連想させる。その中には、boo dɛɛŋ（最高級）や fai khiao（妨げず自由に行かせる）のようなプラス的な状態や評価だと思われる表現も若干見られるが、それよりも、望ましくないマイナス的なものが圧倒的に多く見られる。タイ人は、性質、精神、理念、そして倫理上、一般的であり、正常な状態の場合は「色がない」と意識し、特別であり異常な、そして望ましくない状態、性質、精神、理念などには、「色がある」または「ある特定の色を持っている」といったような意識を持っていると解釈できるだろう。これらの事例から、タイ人が色彩全般に対して強い関心を持っていることが改めて確認できた。そして、それらの表現法およびそれぞれの表現法を通して生み出される限定的な色彩、明暗や濃淡などの色合いの違い、そして象徴や含意は主に、sǐi（色）、dam（黒）、khǎao（白）、dɛɛŋ（赤）、khiao（緑）、そして lǎaŋ（黄）に見られるが、その中では色全般を表す sǐi や dɛɛŋ（赤）と khiao（緑）が最も多く見られる。lǎaŋ（黄）にも比較的多く見られるが、sǐi（色）、dɛɛŋ（赤）、khiao（緑）、dam（黒）、khǎao（白）ほどではない。nám-nɔn（青）、nám-taan（茶）、muaŋ（紫）、chomphu（ピンク）、sôm（オレンジ）、そして thao（灰）にはわずかに見られ、そしてその中で最も少ないのは nám-nɔn（青）、sôm（オレンジ）、そして thao（灰）の3色である。Berlin B. and Kay P. [1968] は、色彩に対する認識は様々な民族や社会によって相違があり、段階的な展開が見られると論じたが、このことをタイ人の場合で推論すると、色彩に対するタイ人の認識は2段階に大きく分けられる。ここでは dɛɛŋ（赤）、khiao（緑）、khǎao（白）、dam（黒）、そして lǎaŋ（黄）の色彩語表現が多く見られる色を A グループとし、muaŋ（紫）、nám-taan（茶）、chomphu（ピンク）、sôm（オレンジ）、nám-nɔn（青）、そして thao（灰）の色彩表現の少ない色を B グループとする。色彩に対する認識は A から B へと広がってきたものと考えられる。そして、色彩語表現

の数が色彩に対する意識や関心の深さを表すと考えると、色彩表現が最も多く見られる dɛɛŋ (赤) と khǎo (緑) が最も深く、その次は khǎao (白) と dam (黒) となり、さらに lǎaŋ (黄)、そして mǔaŋ (紫)、nám-taan (茶)、chomphuu (ピンク)、sôm (オレンジ)、nám-ŋən (青)、thao (灰) へと浅くなると考えられる。このことを表にまとめると以下のとおりであろう。



[\longleftrightarrow]はAグループ(色彩語表現が多く見られる色)からBグループ(色彩語表現が少ない)へ、色彩に対する認識の広がり過程を示す。> は色彩に対する意識や関心の深さにおける大小関係を示す。]

上記の言語表現に見られる色彩に対するタイ人の感覚、および認識の展開や意識は、生活環境だけではなく、特定の時代の状況や動き、日常生活における事情、人々の理念や考えなどにも影響を受けることも明白である。たとえば、dɛɛŋ (赤) について言えば、1960-1970 年代の間であれば、「共産主義」の象徴として意識されるだろうが、2009 年現在では、まず思い浮かぶのは DADD という政治活動の団体のことであろう。そして、伝統的には僧侶の象徴として意識されてきた lǎaŋ (黄) も 2006-2007 年の間は国王、そして、2008 年からは PAD という政治活動の団体の象徴ともなっている。また、元来、夫と死別、または離婚した女性を象徴したが、現在、タイの社会で様々な分野で活躍するのが目立つようになっている男性同性愛者の象徴としても意識されるようになっている mǔaŋ (紫) にもそのような意識の変遷が見られる。よって、今後、これらの意識にはさらなる変化が起ころいえるとも言えるだろう。

5. 残された課題

本稿は、sǐi (色) と特定の色彩を表す言葉、およびそれらの言葉と共起する表現を取り上げ考察したが、考察の対象は sǐi (色) と特定の色彩を表す言葉に重点が置かれていたが、

色彩語を修飾したり、共起する言葉の特徴も検討すれば、色彩語における表現の意味的な特徴に新たな解釈を見いだすことができるかもしれない。たとえば、一つの色彩語に複数の種類の修飾語が後続する場合は、それぞれの修飾語の間に含意の相違があるかどうか、あるとすればどのようなものであるのか、などなど。また、*nám-ɣən*（青）にはまだ不明な点が残っている。タイ語の基本色彩語は *nám-taan*（茶）と *nám-ɣən* 以外は、単語彙素（monolexeme）の言葉である。しかし、*nám-taan* は元来「砂糖」という意味のある語から来たので、語源が明白である。それに対し、*nám-ɣən* [水・銀] は「青」を表す語として、その語源にまだ不明な点が残されている。これらの問題を今後の課題として、引き続きタイ人の色彩に対する認識と意識を考察していきたい。

参考文献

- アンヌ・ヴァリシオン, 2005, 『色 COLORS: 世界の染料・顔料・画材 民族の色と文化史』, 河村真紀子・木村高子 (訳), 2009, 株式会社マール社, 東京.
- 風見明, 1997, 『色の文化誌』, 工業調査会, 東京.
- 武井邦彦, 1989, 「色彩と形態と言語」, 『言語』 18, No.11, 大修館書店, 東京, pp.38-45.
- 富田竹二郎, 1990, 『タイ日辞典』, 養徳社, 天理.
- 宮本マラシー, 2009, 「クレオール文化・伝統織物・女性」, 『着衣する身体の政治学: 周縁化される「伝統」の共鳴』, 武田佐智子・宮原暁 (編), 科学研究費補助金報告書基盤研究 (A) 「着衣する身体と女性の周縁化」 (研究代表: 武田佐智子) 報告書, pp.42-46.
- _____, 1996, 『タイ語の言語表現』, 大阪外国語大学, 大阪.
- _____ と増田新, 2002, 『CHAIYO: タイ語の文法と会話』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 東京.
- Berlin, Brent and Kay, Paul, 1968(paperback ed.,1999), *Basic Color Terms: Their Universality and Evolution*, CSLI Publications, California.
- Gage, John, 1995, “Colour in Culture”, in Lamb, Trevor and Bourriau, Janine(ed.), *Colour: Art & Science*, Cambridge University Press, Cambridge, pp.175-193.
- http://th.wikipedia.org/wiki/แนวร่วมประชาธิปไตยต่อต้านเผด็จการแห่งชาติ_แดงทั้งแผ่นดิน
- <http://th.wikipedia.org/wiki/พันธมิตรประชาชนเพื่อประชาธิปไตย>
- Lyons, John, 1995, “Colour in Language”, in Lamb, Trevor and Bourriau, Janine(ed.), *Colour: Art & Science*, Cambridge University Press, Cambridge, pp.194-224.
- Thongkum, Theraphan L., 1992, *Colour Terms in Yao(Mien)*, Chulalongkorn University, Bangkok.
- ราชบัณฑิตยสถาน, 2003, *พจนานุกรมฉบับราชบัณฑิตยสถานพ.ศ.2542*, นานมีพับลิชชิ่ง, กรุงเทพฯ.

色彩語の出所である web:

1. <http://blog.eduzones.com/applezavip/21690>
2. <http://blog.eduzones.com/applezavip/21718>
3. <http://board.dsserver.org/d/d2bstory/00002445.html>
4. <http://board.palungjit.com/f2/-166135.html>
5. <http://dek-d.com/board/view.php?id=917448>

6. <http://ecurriculum.mv.ac.th/library2/clinic/thaimental/Question.asp-GID=29251.htm>
7. <http://board.siamphone.com/viewtopic.php?p=862095&sid=2afd0c34421d389f986fa7787fac445d>
8. <http://dara.hunsa.com/detail.php?id=16895>
9. <http://guru.sanook.com/answer/question>
10. <http://hilight.kapook.com/view/29796>
11. <http://news.mjob.in.th/world/cat12/news17296/>
12. <http://play.kapook.com/vdo/show-22949>
13. <http://photo.lannaphotoclub.com/index.php?topic=6415.15>
14. <http://qwer.dek-d.com/board/view.php?id=1007638>
15. http://shopping.sanook.com/buy/buy_detail.php?nitemID=1885149
16. <http://thaiinsider.info/2009news/the-news/politics/1919-2009-05-08-09-33-07>
17. <http://th.answers.yahoo.com/question/index?qid=20090206203055AA4RC8I>
18. <http://th.newspg.com/-29326897.html>
19. <http://topicstock.pantip.com/rajdumnern/topicstock/2009/04/P7742195/P7742195.html>
20. <http://webboard.news.sanook.com/forum/?topic=2571906>
21. http://women.sanook.com/pets/breed/cats_44521.php
22. <http://www.212cafe.com/freeguestbook/viewcomment.php?gID=640082&user=kanya>
23. <http://www.bloggerlover.com/>
24. <http://www.bookmarkdigg.com>
25. http://www.dailynews.co.th/web/html/popup_news/Default.aspx?Newsid=196600&NewsType=1&Template=1
26. <http://www.exteen.com/tag/>
27. <http://www.globalfashionreport.com/?l=th&a=33209>
28. <http://www.google.co.jp/search?hl=ja&q=>
29. <http://www.goojaba.com/index.php?topic=1208.0>
30. <http://www.gosam.com/news/news/html/0004848.html>
31. <http://www.jeban.com/viewtopic.php?t=16612>
32. <http://www.jeban.com/viewtopic.php?t=21747>
33. http://www.kroobannok.com/view.php?article_id=10348
34. http://www.maticchon.co.th/news_detail.php?newsid=1244463228&grpId=10&catid=17
35. <http://www.oknation.net/blog/print.php?id=64319>
36. <http://www.pantip.com/cafe/gallery/topic/G2619935/G2619935.html>
37. <http://www.pantip.com/cafe/lumpini/topic/L7838886/L7838886.html>
38. <http://www.pantown.com/board.php?id=7&area=4&name=board1&topic=191&action=view>
39. <http://www.pharm.su.ac.th/thai/organizations/dis/webboards/showQAnswer.asp?qNo=1538>
40. <http://www.raorakpar.org/raorakparboard/index.php?topic=416.0>
41. <http://www.romanticgals.com/modules.php?name=Forums&file=viewtopic&t=2034>
42. <http://www.ryt9.com/s/ryt9m/155635/>
43. <http://www.siamdara.com/hotnews/00001856.html>
44. <http://www.siamzone.com/board/view.php?sid=796590>
45. <http://www.siamzone.com/movie/news/index.php?id=2653>

46. <http://www.skph.org/modules.php?name=Forums&file=viewtopic&p=4>
47. http://www.sritown.com/webboard/answer_view.php?id_top=4272&mode=3
48. http://www.thaiclinic.com/cgi-bin/wb_xp/YaBB.pl?board=eye;action=display;num=1239946383
49. <http://www.thaidphoto.com/forums/archive/index.php?t-3747.html>
50. <http://www.vcharkarn.com/vblog/34142>
51. <http://www.vcharkarn.com/vblog/41755>
52. <http://www.yenta4.com/webboard/2/1130986.html>

(2009. 10. 12 受理)